

# 湯河原営農経済センターだより

令和7年1月

湯河原営農経済センター  
Tel62-6149



西湘きんじろう

## ○営業時間の変更について

令和6年12月30日(月) 13時まで営業 ゆうパック受付11時まで

令和6年12月31日(火)～令和7年1月5日(日)まで休業

令和7年1月6日(月)より通常営業

令和7年1月31日(水) 15時まで営業

## ○地域農業応援プログラムについて

カメムシ駆除農薬助成(スタークル顆粒水溶剤)の申請期日は令和7年2月17日(月)となっております。年に1回の申請となりますので、最終購入後、申請をお願いします。必要書類がありますので、詳細はセンター職員までお問い合わせください。期日後の申請は受付できませんので、お早目の申請をお願いします。

## ——【温州みかん】\*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

**貯蔵管理** 室内温度：3～5℃ 湿度：85%程度が最適の環境です。

貯蔵庫内の湿度が高い時は天気の良い日に開放して乾燥した空気を入れ、湿度が低い時は新聞紙でカバーをするか打ちて湿度を保ちましょう。

但し、湿度が高すぎると、予措戻りになり浮皮果になるので注意しましょう。また、0℃付近になると低温障害を起こすため、寒波時は貯蔵庫を密閉しましょう。

また、貯蔵庫内への果実の入れすぎに注意し、貯蔵中に発生した腐敗果は適時取り除きましょう。

\* 出荷時の家庭選果を徹底してください。

**害虫防除** 12月下旬～1月中旬(収穫後、厳寒期をさけて散布をしましょう。)

○ミカンハダニ

○カイガラムシ類

アタックオイル又はハーベストオイル又はスプレーオイル  
60倍 1.66ℓ/水 100ℓ

カイガラムシ類が見られた園地では、必ず実施して下さい。

越冬中の虫や卵を油で被覆して窒息させますので抵抗性がつきません。

## **土壌改良**

酸性土壌の矯正 苦土タンカル 200kg/10a(1～2月)

\* 葉色の悪い園は微量元素不足が考えられるので、マルチサポート 80kg/10a を施用する。

## ——【中晩柑】——

防寒対策と鳥害対策を兼ね、袋かけやネットによる被覆を遅くとも1月中旬までには終了させましょう。

**獣害対策として**電気柵、鉄網柵を園外周に設置する。定期的にメンテナンスする。

## ——【湘南ゴールド】——

**病害防除** 12月下旬～1月上旬

○貯蔵病害

ベフトップジンフロアブル(劇) 1,500倍 66ml/水 100ℓ 収穫前日 2回

(青かび病、緑かび病、軸腐病) 又は トップジンM水和剤 2,000倍 50g/水 100ℓ 収穫前日 5回

\*1月に入りサンサンネット被覆前にベフトップジンを薬剤散布すると、さび症(果皮の褐色)の発生軽減に効果があります。(県農業技術センター試験結果より)

**\*ベフトップジンフロアブルについては令和7年(2025年)10月に登録失効となっておりますので、ご注意ください**

## 【レモン】

### 収穫後

かいよう病 IC ボルドー66D 100倍 1ℓ/水100ℓ (アピオンE 1,000倍 100ml/100ℓ加用)  
又は ムッシュボルドーDF 1,000倍 100g/水100ℓ  
(クレフノン 200倍 500g/100ℓ加用)  
発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用は必要ない。

### 貯蔵

常温保存は、腐れが多いことから冷蔵保存を基本とする。(気温5℃、湿度85%)  
冷蔵できない場合は、集荷時期に合わせた収穫を行い、貯蔵期間を極力みじかくする。

## 【う め】

病害虫防除 12月～1月上旬

休眠期(落葉後～萌芽前)

〇コスカシバ フェニックスフロアブル 200倍 500ml/100ℓ

開花期までに1回 樹幹部及び主枝に散布

開花前

〇カイガラムシ類・越冬病害虫 石灰硫黄合剤 10倍 10ℓ/水100ℓ

1月

〇灰星病 開花期始め(2分咲き)～満開期

ベルコート水和剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫30日前 3回

※主力品種の開花期始めと満開期に防除しましょう。

※ただし、'十郎'を栽培している場合は、'十郎'の開花状況に合わせる

※灰星病で枯れた枝を開花期まで剪除して、園内に残さない

### 整枝剪定

細部(ハサミ)の剪定を1月下旬までには終了させましょう。又、翌年の事を考えて、一年枝は全部取らずに横から出ている弱い枝は残して予備枝の確保をしましょう。太枝のノコギリ剪定が終了していない園は、芽をいためますので早めに剪定をしましょう。

## 【キウイフルーツ】

整枝剪定 12月～2月上旬(樹液が流動する前)

一文字整枝を基本に、主枝・亜主枝を明確にしながら、養分の無駄づかいになる太い枝を出来るだけ減らすことがポイントになります。

ただし、高樹齢樹は樹がいたむので亜主枝の更新は避けましょう。古い側枝(結果母枝)の更新では先追いしないよう亜主枝、主枝に近づける切り戻し剪定を行いましょう。

安定した収量を得るため充実した新梢と本年の結果枝を併用して、1㎡あたり3～4本の結果母枝を配置しましょう。

台風による落葉が多かった園地では、充実した結果母枝を残しましょう。

(また、春の風害を想定してやや多めに結果母枝を確保しましょう)

病害虫軽減のポイント

- ・ かいよう病で暗赤色の漏出した場合は、健全部まで切り戻しましょう。
- ・ 軟腐病の発生源になるので果梗は必ず切除しましょう。
- ・ 剪定後の切口へのトップジンMペーストの塗布(かいよう病の侵入口となるため)  
(切口が大きければその日のうちに塗布しましょう)
- ・ 病害虫の発生源になる剪定枝は園外廃棄しましょう。

農業を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するため、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用するとともに、飛散防止に努めましょう。